

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	合成第5棟	階数	地上4F
建設地	小田原市高田字桜町477番地1他15筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域、指定なし	平均居住人員	40人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2017年6月30日
敷地面積	6,062㎡	作成者	㈱HJフロントエンジニアリング一級建築士事務所
建築面積	1,707㎡	確認日	2017年6月30日
延床面積	5,804㎡	確認者	㈱HJフロントエンジニアリング一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		その他
総合 小田原市に計画された工場である。高効率な設備機器の導入により、環境負荷の低減に配慮した建物である。		-
Q1 室内環境 ・全面的にF★★★★の材料を使用している。	Q2 サービス性能 ・高寿命な材料を使用し、建物の耐久性に配慮している。 ・階高を高く確保することで、設備システムの変化や増強に対応可能な計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) ・周囲から視線を遮るような計画とせず、防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー ・省エネ機器の採用等により、エネルギー消費量低減に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・井水を利用することにより、上水利用量削減に配慮している。 ・再利用可能なユニット部材の採用により、非再生性資源の使用量削減に配慮する。	LR3 敷地外環境 ・燃焼設備を設けず、オール電化とすることで敷地外への大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される